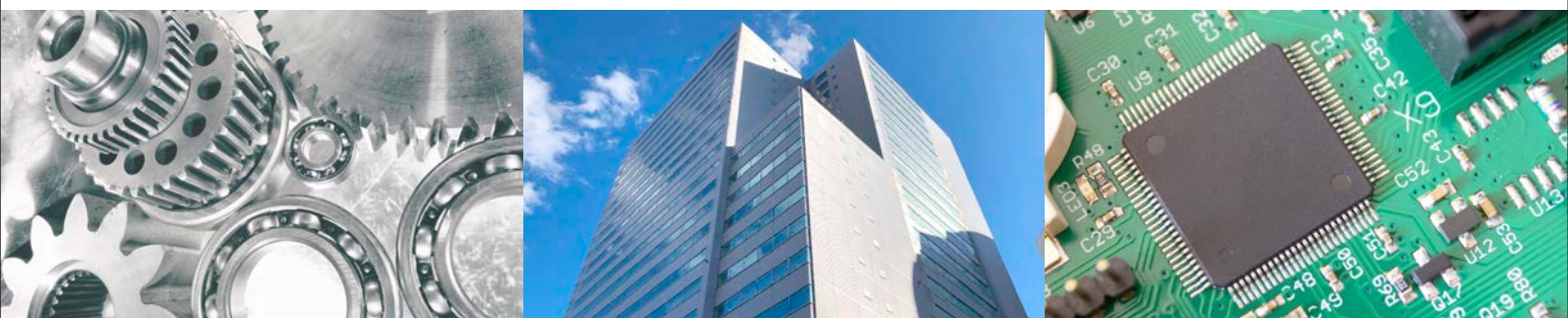


重要なのはバックアップデータの保護 Arcserve OneXafe & Arcserve UDP で ランサムウェア対策を実現

高速なバックアップとリカバリ、わかりやすい画面構成など、ハード・ソフトの両面で高評価



ユーザープロフィール

業 種: 総合技術商社
組織名: 株式会社瑞穂



課題

これまで着実にセキュリティ対策を進めてきたが、近年のランサムウェアによる攻撃に次元の異なる脅威を感じていた。問題は、バックアップデータまで暗号化されてしまうことだった。ビジネスを止めないためには、バックアップデータが侵害されないことが最重要だという結論に至り、ランサムウェア対策としてデータバックアップ体制の強化を図ることにした。

経緯

バックアップ体制の強化策として選択肢を3つ挙げた。クラウドストレージとテープバックアップ、そしてイミュータブルストレージ Arcserve OneXafe だ。クラウドシフトを進めていた会社にとってクラウドストレージは親和性があったが、テラバイト級のデータをアップロードする最初の一步の敷居が高く、テープバックアップはリストアの作業負担に難点を感じた。

導入

4年前に Arcserve UDP を導入していた会社にとって、Arcserve OneXafe は身近な存在だった。運用の流れを変えることなく大容量データをバックアップでき、スナップショットを不変の状態でも保管できること、そのためバックアップデータを検証することなく迅速にリストアできることも魅力を感じた。冗長性設計などハードウェアとしての完成度にも納得できたことから、採用を決断した。

効果

導入により、確実にリストアできる不変のデータを保管できる体制が整った。また、バックアップ設定やリストア作業が分かりやすい画面構成になっている点や、管理ツールがクラウドに用意されており構築不要である点も評価されている。さらに、日常運用は手がかからず順調に進んでおり、バックアップスピードについては以前に比べて格段に速くなった。





▶ ランサムウェア対策として担保したかったバックアップデータの安全

株式会社瑞穂は、創立から77年の歴史を誇る総合技術商社だ。日立グループのパートナーとして、産業機械製品、空調機器製品、電子デバイス製品、情報システム製品の販売と、プラントソリューションの提供を行っている。産業機械製品では産業用無線ルーターやファンフィルターユニット、変圧器などの製品を、空調機器製品では、パッケージエアコンなどの製品を取り扱っている。また、電子デバイス製品では、半導体やパワーデバイスなどの製品を、情報システム製品では、産業用パソコンなどの製品をそれぞれ取り扱っており、プラントソリューションでは、設計・施工から保守管理まで、クライアントのニーズに合わせた最適なプランを提案している。

海外ビジネスにも積極的に取り組んでおり、上海、蘇州、香港、シンガポールの4つの海外拠点を軸に、顧客のグローバルなビジネス展開を支援している。

同社 管理本部 情報システム部では、これまで着実にセキュリティ対策を進めてきたが、近年のランサムウェア攻撃には次元の異なる脅威を感じていた。同部 部長 小林 浩氏は、次のように語る。

「報道でも知られるとおり、自動車メーカーや病院などがランサムウェアの被害に遭い、事業停止に追いこまれました。詳しく調査すると、バックアップデータは取得していたのに、それまで暗号化されてしまったために、本格的なシステム復旧まで非常に長い期間を要した組織もあります。ビジネスを止めないためには、バックアップデータが侵害されないということが重要だ」という結論に至り、ランサムウェア対策としてデータバックアップ体制の強化を図ることにしました」

▶ 3つの候補の中から Arcserve OneXafe を選択

2022年8月、新たに導入するバックアップ製品/サービスの選定に入った情報システム部では、選択肢を3つ挙げた。

1. クラウドストレージを使ったバックアップ
2. テープバックアップ
3. イミュータブルストレージを使ったバックアップ

1つめのクラウドストレージを使ったバックアップは、情報システムのクラウドシフトを進めている会社にとって親和性が高かった。

また、2つめのテープバックアップはバックアップ技術として歴史があり別置保管ができる。同社が利用しているプライベートクラウドでは要員が確保でき、テープバックアップの運用は可能だった。



株式会社瑞穂
管理本部 情報システム部
部長 小林 浩 氏



株式会社瑞穂
管理本部 情報システム部 情報システム課
課長 杉本 英和 氏



最後の3つめに挙げられたのが、イミュータブルストレージ Arcserve OneXafe (ワンセーフ) である。同社では4年前から統合バックアップ/リカバリソリューション Arcserve Unified Data Protection (以下、Arcserve UDP) を導入している。それ以前は、IaaS 環境標準のバックアップや、Windows で使用できる robocopy を使用したバックアップが中心だったが、これらの方法だと世代管理ができないので、エンドユーザーが古い世代のファイルに戻りたいときの要望に応えられなかった。また、リストアが必要になった場合に、早急に作業が完了できないという課題もあった。これらを解決すべく Arcserve UDP を導入し、リクエストベースでのファイル復旧を実現している。

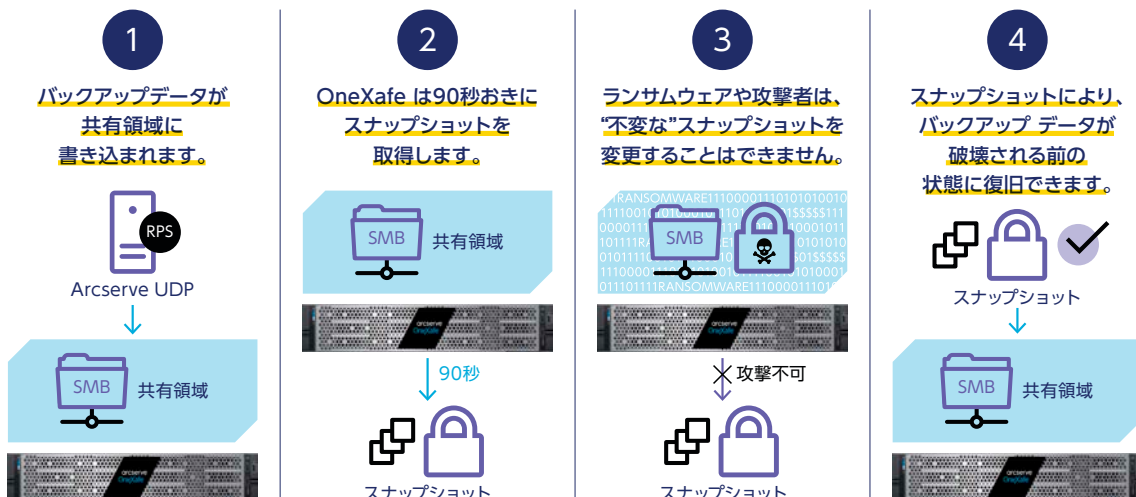
Arcserve OneXafe のことは、システムインテグレータを通じて話聞いていたそうだ。この製品はイミュータブルストレージで、バックアップデータの格納先として利用する。ストレージに書き込まれたバックアップデータに対しては90秒ごとにオーバーヘッドの少ないスナップショットが作成される。ランサムウェアがこのバックアップデータに対して不正に暗号化や削除を行っても、スナップショットが参照しているデータブロックに関しては書き換えや削除をせずに残しているため、失われない。つまり、このスナップショット自体が「不変」であり、改ざんができない。万が一本番システムに何か危害が加えられても、スナップショットから戻したバックアップデータを利用してリストア作業を行うことができる。

同部 情報システム課 課長 杉本 英和氏は、Arcserve OneXafe の第一印象について次のように語る。「正直、最初は新しい製品でまだ日本で知られていないこと、イミュータブルという言葉が聞きなれないこともあって、『それ、何?』という感じでした。しかし、インターネット上の情報や、Arcserve の担当者から話を聞いて、データが不変というのはすごい、これは安心できると思いました」

一方、比較検討を進めていくとクラウドストレージとテープバックアップの運用上のデメリットが見えてきたという。同社では約 5TB クラスのファイルサーバを運用しているが、これをクラウドストレージにバックアップを取ろうとすると、完了までに1週間がかかることが判明した。最初の一步の敷居が非常に高いのだ。テープバックアップはというと、これには情報がリニアに記録されており、大量にデータを書きこんでいる場合、特定のデータを探し出し復元するのに時間がかかる。いざリストアが必要となると高い作業負荷を覚悟しなければならない。

検討の結果、大容量データを今までの運用の流れを変えずにバックアップでき、リストア作業も簡単に行える Arcserve OneXafe に傾きつつあったが、ハードウェアストレージとして気になる点があったという。そこで、杉本氏は役員とともに Arcserve オフィスを訪ね、実際に製品を見ながら質問をぶつけた。その場で具体的に技術担当者の口から電源やディスクが冗長化されていることなどを始め、アーキテクチャやスペック、性能について確認できたことで心から納得し、2023年2月に導入を決断した。

ランサムウェアから確実に守る Arcserve OneXafe の仕組み





▶ 必ず戻せるデータが存在する安心感は何ものにも代えがたい

2023年3月にシステムインテグレータが構築を開始し、作業そのものは1日程度で終了した。バックアップ対象データは、オンプレミス、プライベートクラウド双方にあり、総容量は約 7TB。共に Arcserve OneXafe を一次バックアップ先として日次バックアップ運用を行っている。業務システムごとに時間帯をずらしながら、夜9時から朝3時までの間にバックアップを取得している。

小林氏は、Arcserve OneXafe でランサムウェア対策を図った効果をこう語る。

「必ずリストアできるデータが存在するというのが一番大きいです。速く戻せるからビジネスへのインパクトが小さいということもありますが、それ以上に、万が一何かあっても確実に戻せるという安心感は何ものにも代えがたいものがありますね。しかも、データが不変であることが保証されているから、いざリストアするということもバックアップデータの検証をしなくて済みます。検証作業を省略して戻せるという点もわれわれには大きな魅力です」

一方、杉本氏は Arcserve OneXafe の製品特徴について次のように語る。

「バックアップ設定やリストア作業が分かりやすい画面構成になっており、バックアップ領域が専門でない人にも操作しやすい点がすばらしいと思います。

また、共有フォルダやスナップショットを管理する機能がクラウド上で用意されているため、当社で構築することなく使用できることもよいところです。クラウドということでセキュリティは少し気になりますが、二要素認証機能が用意されており、安心して使用しています」

しかも、メインのバックアップストレージを Arcserve OneXafe とした結果、バックアップスピードが以前に比べて格段に速くなった。法人向けストレージとしての実力を感じる、と杉本氏。

今後、同社は災害対策としての事業継続性強化も図っていく予定だ。すでに社内横断で委員会が組織され、現在はスコープや体制について協議されている。Arcserve テクノロジーは、その実現環境の有力候補に入っているという。ランサムウェア対策でバックアップ体制の強化に乗り出した株式会社 瑞穂は、企業資産としてのデータの安全をさらに追い求めていく。

arcserve®

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。製品の仕様・性能は予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。
Copyright ©2023 Arcserve (USA), LLC. All right reserved.

Arcserve Japan

お問い合わせ

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング
Arcserve ジャパン ダイレクト 0120-410-116 (平日 9:00~17:30)
JapanDirect@arcserve.com

Arcserve.com/jp

検索

WEBサイト: www.arcserve.com/jp

※記載事項は変更になる場合がございます。2023年10月現在